



川との共存は、これからも続く。

源堰堤（南アルプス市）・・・大正9年に竣工。現在でも築堤期の姿を残しています。



今回の埋文やまなしでは、山梨県内に残る様々な治水に関する遺跡をご紹介します。

「治水」が重要視されました。周囲を山に囲まれた山梨県は、昔から多くの水害に悩まされてきました。そのため、大雨で川の水量が増えた際などに洪水や土砂崩れから生活を守るための

「治水」が重要視されました。周囲を山に囲まれた山梨県は、昔から多くの水害に悩まされてきました。そのため、大雨で川の水量が増えた際などに洪水や土砂崩れから生活を守るための

特集

山梨の人と川の歴史

川に行くと、上の写真のような石積やコンクリートの壁を目にしたことはありませんか？これらは、水の勢いを抑えたり、土砂をせき止めるために作られている堰堤という施設です。

多くの水害に悩まされてきました。そのため、大雨で川の水量が増えた際などに洪水や土砂崩れから生活を守るための

御勅使川 × 釜無川

さらに詳しく知りたい方は...

check!!



南アルプス市文化財 Mナビ

御勅使川は暴れ川として知られ、大雨が降ると沿岸部だけでなく合流した釜無川を押し出し、甲府盆地中央部にも大きな被害をもたらしてきました。そこで人々は古くから信玄堤に代表されるさまざまな堤防や水制を築き、近代に入ると山間部に砂防堰堤を設置し、洪水から暮らしを守ってきました。御勅使川の堤防の一部は、御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）として国の史跡に指定され、現在整備が行われています。

水不足に悩まされる御勅使川扇状地に釜無川から水を提供するため、江戸時代に造られました。



⑤芦安堰堤 (あしやすえんてい)
 大正5年に、日本で初めて本格的にコンクリートを使用して作られました。竣工当時は日本で一番高い堰堤でした。



④かすみ堤 (河西かすみ堤公園)
 霞堤は江戸時代に築かれた不連続な堤防で、上流の堤防が決壊しても控え堤が防ぎ洪水流を河道へ戻す役割を持っていました。

国史跡御勅使川旧堤防



①石積出 (いしつみだし)
 ①石積出 (一～三番堤が国史跡)
 御勅使川扇状地扇頂部に築かれた石積の堤防で、扇状地全体の集落を守る役割を果たしていました。

②柵形堤防 (しつみだし) ③六科将棋頭 (むしなしょうぎがしら)
 柵形堤防は、徳島堰から旧六科村へ分水する門を守る石積の堤防です。柵形堤防で分水された水は、下流の六科将棋頭が守る堤防内に導水され、水田に利用されました。六科将棋頭は、内側に造られた水田や下流の村々を守っていました。



↑ 現在公開に向けて整備中!

(協力・写真提供 (①～③、⑤) : 南アルプス市教育委員会)

富士川

富士川は、日本でも有数の急こう配な川です。このため、古くから大雨や土砂災害に悩まされてきましたが、江戸時代には富士川水運が山梨の経済の大動脈として機能し、昭和3(1928)年に現在の身延線が全線開通するまで甲府盆地の経済を支える役割を担いました。



⑥柵原堰堤 (とちはらえんてい) (写真提供: 早川町教育委員会)
 昭和8年、春木川に作られた砂防堰堤です。ここでは、上流の七面山の大崩壊地から流出している土砂などを、多くの砂防堰堤によってせき止めています。



⑦大野堤防遺跡 (おおのていぼういせき)
 江戸時代に作られたとされる堤防です。平成24年の発掘調査で200m以上の堤防が確認され、堤防を保護するための蛇籠(竹材で編んだカゴに石を詰めたもの)などが見つかりました。



※河川に行く際は、立ち入りが禁止されている箇所や、水位が高い地点には絶対に入らないでください。

笛吹川×金川

ふえふきがわ

かねがわ

万力林、金川の森は、笛吹川と金川の水害防備林です。水害防備林は、木々によって水害の際の土砂や流木が市街地に流れこむことを防ぎます。また、万力林の中には雁行堤、金川の森には霞堤と呼ばれる石積みの堤防が残されています。



⑧雁行堤 (万力公園)

現在は、上部の石積みを見ることができます。

⑨霞堤 (金川の森)

不連続につくられた堤防の様子を見ることができ、霞堤の構造がわかります。



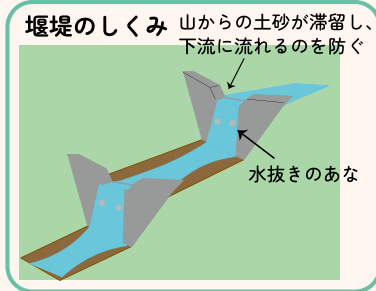
かすみでいの上を
ウォーキングしよう



明治 40 年、関東甲信越地方を中心に大雨が降り、これにより峡東地域で未曾有の大水害を引き起こしました。明治 43 年にも同様の水害が発生し全国的に甚大な被害をもたらします。その後、全国的な河川改修工事が始まることとなります。ここでは、その代表的な事業である日川での治水事業をご紹介します。

日川水制群・勝沼堰堤 (王)

明治 44 年から大正 4 年にかけて、祝橋の上流と下流あわせて 3km の区間で水制設置工事が行われました。水制は、水の流れる方向を変えたり、水の勢いを弱めるためのものです。また、大正 3 年にも大洪水が起こったため、さらに上流部に勝沼堰堤を含めた 12 基の堰堤が造られました。日川水制群は上部を残して土砂に埋設され役目を終えました。そこに溜まった土砂を利用してブドウ作りが始まり、現在でもブドウ畑が広がっています。



勝沼堰堤発掘調査時 (平成 16 年度) の様子
現在は砂防学習公園として整備されている勝沼堰堤。周囲の景色に溶け込み、自然の滝のような様子を見ることができます。

(情報提供：山梨県考古学協会事務局長 室伏徹 氏)

→ 日川水制群は、洪水の危険から人々を守ったあとに、山梨県の産業にも貢献しているのです！



日川水制の上のぶどう棚の様子

明治以降の日川治水事業

ひがわ (にっかわ)

勝沼堰堤についてもっと詳しく！



埋蔵文化財センター
遺跡トビックス

近年発掘された堤防

近年、リニア中央新幹線建設に関わる発掘調査でも堤防遺跡が見つっています。これらの遺跡は建設工事に着手する前に詳細な記録を行うことで、かつての人々が川とどのように共存していたのかを後世まで残すことができます。ここでは、令和2年度・5年度に発掘された富士川周辺の堤防遺跡をご紹介します。

とがわ ていぼう いせき 戸川堤防遺跡 (南巨摩郡富士川町最勝寺地内)



写真①戸川堤防遺跡



写真②発掘調査の様子



表面の石積の組み方から、明治以降につくられたと考えられる堤防跡が発見されました。石積には、戸川の河床礫と同じ種類の石材が使われています。川側の石積は、写真②のようになんと2重になっていました。でも、初めから2重に造られていたわけではありません。先に造られた石積の下1/2程度が戸川の砂礫に埋まってしまったため、砂礫を掘り下げて新たに堤防の石積を築いたものと考えられます。川の氾濫に備えた、河川改修の跡でしょうか。

きゅうとね がわていぼう いせき 旧利根川堤防遺跡 (南巨摩郡富士川町小林地内)



旧利根川堤防遺跡遠景



発掘された旧利根川堤防遺跡

度重なる水害によって増穂地域に甚大な被害をもたらしてきた利根川。川底がまわりの家の屋根ほど高い天井川であったため、利根川を横断する国道52号線も、「ボロ電」と親しまれた山梨交通電車線も、川の下をトンネルで通過していました。2020年の発掘でその堤防の一部が発見されました。流域の町や田畑そして人命を守ってきた堤防。江戸時代以降の特に新しい時代のものと思われませんが、洪水との闘いの様子を残す貴重な発見です。

※天井川…川底に土砂がたまっていき、人々が暮らす土地よりも川底の方が高くなった川のことを指します。山梨県では、かつてこのような川が多く存在しましたが、現在は河川を下げる工事により見られなくなりました。

堰堤さんぽ



編集後記
山道を車で走っている時、堰堤を見るとつい車を止めてしまいます。私たちの安全な生活の一部は山の奥でひっそりと建っている堰堤と、それを作った人々に支えられていると実感するのです。(み)

埋文やまなし 第69号

発行 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

☎ 055-266-3016

印刷 株式会社峡南堂印刷所



HPはこちら